転車台（てんしゃだい）って知っていますか



私の生活圏にJRの鉄道があります。子どもの頃からSL（蒸気機関車）を見るのが好きでよく亀山駅まで見に行ったものです。

先日、線路沿いを通りかかった時にふと転車台（左の写真）を思い出し、写真を一枚撮りました。転車台とは蒸気機関車のように前、後ろが決まっている車両で、向きを変える場合にこれに乗って180度回転する装置です。

亀山の売りは「鉄道遺産」が多くあることだ

これは蒸気機関車が走っていた鉄道で、しかも車両基地となっている所だったことを示しています。子どもの頃から「亀山は鉄道のまち」という言葉をよく耳にしましたが、この転車台もそのことを示すいわば「鉄道遺産」です。亀山駅前の再生が大きな課題になっていますが、新たに造れないこうした歴史のある「鉄道遺産」を生かすことを亀山市の「売り」にし、新たな訪問客を呼び込むことを考えるべきです。

こうきの日誌（6月1日～6月24日）

赤旗の配達、集金活動等は除く

1日　本会議（開会）　予算決算委員会
2日　野村まち協グランドゴルフ大会
3日　訪問活動
4日　市議団会議
5日　通告締め切り
6日　理事者からの聴き取り
7日　党市委員会会議　相談活動
8日　質疑・質問の準備
9日　南崎町自治会への市の説明会（傍聴）
10日　質疑・質問の準備
11日　党会議
12日　本会議（議案質疑）
13日　本会議（一般質問）
14日　本会議（一般質問）
15日　原水爆禁止国民平和大行進
16日　原水爆禁止国民平和大行進（見送り）
17日　議会報告づくり　訪問活動
18日　産業建設委員会
19日　議会報告づくり
20日　市議団ニュースづくり
21日　党会議
22日　党会議　相談活動
23日　県党会議　地区党会議
24日　議会報告づくり　訪問活動



南野町に残る武家屋敷の名残（なごり）（低い石積みの上に生け垣）南崎や北野にもあります

この議会報告についてのご意見、ご感想をお寄せください

この議会報告は毎月月初めに発行しています　　好きです　亀山　住みよい街に

2018年　7月　1日　発行　No. 230

こうきの議会報告

日本共産党亀山市議会議員　服部　孝規
〒519－0156　亀山市南野町6－19－1
ご意見、ご感想は　電話、FAX　0595－82－3646
E-mail　kouki@za.ztv.ne.jp　市議団ホームページ　「共産党　亀山」で検索を

このところ目立つ市民の声を聴かない市の姿勢

議員への情報提供を渋るーこれは国会の話ではありません。亀山市議会でもこのことがよく問題になります。先日も乗合タクシー制度でまち協に説明した資料が議員に配布されず議会から批判の声があがりました。櫻井市長のオープンな姿勢が問われます。

さて、このところ、市の市民の意見を聞こうとしない姿勢に批判の声が強くなっていると感じているのは私だけでしょうか。例えば、亀山駅周辺整備事業では、市の玄関口として国の補助金や市の財政負担などで50億円もかける事業であるのに、計画を知った市民や議会から市民説明会を開くように求められてからようやく3回開催しました。

図書館の駅前移転は意見を聴くこともなく決めた

図書館の駅前移転に至っては、図書館利用者や市民の声を全く聞くこともなく、市長の求めに応じて教育委員会が強行に決めてしまいました。この時もこうした動きを知った市民が急遽、会を立ち上げ、図書館前でのシール投票や市の担当者を呼んでの出前講座を開くなど市民への働きかけをしたのです。

認定こども園の計画地　地元に相談もなく市が決定

そして今、大きな問題となっているのが南崎町での認定こども園の計画と乗合タクシー制度です。二つとも市が決定する前に地元住民の意見や市民の声を聞く場を持っていません。市は地域公共交通会議や子ども子育て会議で市民も含め議論してきたというのでしょうが、大きな政策変更となる計画や事業は、決める前に広く市民の意見を聞く場を持つべきです。市民の怒りの多くは、なぜ市が決定する前に意見を聞かないのか、決まってから説明されても変更できないのでは意味がないという声です。

「市民力、地域力が輝くまちづくり」に市民は欠かせない

第2次総合計画の基本構想にある将来都市像の一つに、「市民力、地域力が輝くまちづくり」を掲げ、次のように述べています。『市民、団体、地域、事業者など亀山市に関わるすべての主体がそれぞれの持つ力を合わせ、連携・協働してまちづくりを進めることが重要です。』ー市民の声を十分に聴いてこそ「市民力、地域力が輝くまちづくり」ができるのではないでしょうか。

タクシー券は、通院や買い物などの外出支援が目的

6月議会の一般質問は、高齢者の外出支援であるタクシー料金助成事業（タクシー券のこと）と公共交通としての乗合タクシー制度は全く位置づけが違うものとして質すことが大きな目的でした。まず、タクシー料金助成事業ですが、この事業が始まった時点の平成19年6月定例会で保健福祉部長は次のように述べています。

「対象者と交付枚数の考え方ですが、**高齢者や障がい者の方々が各医療機関に通院したり、また買い物や各種会合、イベントなどに積極的に外出していただき、介護予防にもつなげていただくため**、家族等の支援が受けられないなど移動が困難な方の足を確保する観点から後期高齢者である満75歳以上の高齢者世帯と重度障害者を対象」にしたというものです（その後、何度か見直しがされ現在の制度になりました）。

つまり、タクシー券は通院であろうと買い物であろうと外出支援が目的であり、この事業により目的とした効果があったことも答弁で確認できました。

乗合タクシー制度の導入でタクシー券の廃止は認めない



これを踏まえて乗合タクシー制度に質問を移しました。この制度はどこへ行っても議論になり、批判が次々と出されます。

それはとても公共交通として十分機能しないこの制度を作ったことをもってタクシー券を廃止することへの批判です（左の写真はさわやか号）。

質問では市民から出されたいくつかの意見を紹介し市の見解を質しました。「地域停留所から地域停留所への運行ができないのか」、「予約の手続きなどをもっと簡略化できないのか」、「通院の場合、往復の予約をしなければならないが帰りの時刻が未定では予約もできない」、「この制度の導入で運転免許の返納が進むのか、また、タクシー料金助成事業を継続しなくても市民の移動の自由は保障されると考えているのか」などを質しましたが、市民の疑問、批判に正面から答える答弁はありませんでした。今のままで何とか10月に実施したいという答弁に終始しました。

閉じこもり防止が閉じこもり促進になってしまう

最後にあまりにも問題が多く10月実施は到底、無理であり、実施時期の延期と数年間の試行で、検証と見直しを行い、より良い制度に改善していくよう求めましたが、櫻井市長は「その考えない」と答弁しました。

結局、高齢者の閉じこもり防止で始めたタクシー券を公共交通として十分に機能するかどうかわからない乗合タクシー制度に移行することで廃止すれば、閉じこもりを促進することになると指摘しました。乗合タクシー制度を導入しても外出支援としてのタクシー券は引き続き必要であり、廃止することは認められません。

南崎への説明会　認定こども園の計画の撤回を

6月9日に認定こども園の計画地である南崎町住民を対象に、「認定こども園整備事業及び関連事業（道路）に関する説明会」が行われ傍聴しました。この問題への関心の高さから40人ほどの方が参加され、市からは宇野子ども未来課長をはじめ、福祉と建設のグループリーダーなど5人が出席しました。

私が記録できた主な意見は次のようなものです。「朝の車の流れが大変なことになる。（計画地の）周囲の道路がすべて狭い」、「駐車場が30台で足りるのか」（市は関アスレは19台でやれているので大丈夫と答えたが、それに対して住民から関のアスレは広い道路に接していて比較にならないし、（南崎は）駅へ行く車も多いと批判）。

また、「計画を撤回して欲しい」、「市が決めてから説明に来るのではなく、決める前に説明すべき」、「決め方が適切でない」、「ここでなくても他に候補地がある（図書館や市役所が移転するのならその跡地など）」と次々と意見が出されました。

「市民の声を聞いたのか」、「工事車両は？」などの意見も



さらに「第1愛護園の移転、建て替えなら反対はしない。駐車場もでき、園庭も広くなって運動会もできるし、保育の質も向上する」、「市民の声を聞いて計画を立てたのか。市が勝手に決めるのは納得できない」、「認定こども園に反対なのではなく、大きな園をここに建てることに反対している」、「100人ほどの職員の駐車場はどうするのか」（市はいくつかに分散するが、第一愛護園の跡地も候補と答えたーしかし、園の前の道路は狭隘で対向するのも難しいー服部記）、「道路を整備する前に建設にかかれば、工事車両はどこから入るのか」（市は計画地から御幸橋へ下って行く道路（上の写真）を使うと答えたが、これに対してあの狭い道では無理と批判）などです。

市の答弁　「地元の協力なしに事業は進められない」

最後に今日、これだけ反対の意見を言ったがそれでも進めるのかという問いに、市は「地元の協力なしに事業は進められない。今日の意見をすべて報告した上で市で検討する」と答えました。最後に自治会役員から「今日出た意見に対する回答が欲しい。検討結果を持って話し合う場を持って欲しい」という要望が出され、市も了解しました。

今回の説明会のやり取りを聞いていて、この計画が地元をはじめ市民の声を聞くことなく「南崎ありき」で進められ、そこで生ずる様々な問題まで考えずに計画した市の杜撰（ずさん）なやり方が浮き彫りになった説明会でした。